

## 産業革新投資機構への期待（市場開設者の立場から）

2019年1月18日  
株式会社東京証券取引所  
執行役員 青 克美

今後の我が国経済の成長のためには、新規・成長産業へのリスクマネー供給等の機能を強化していくことが必要不可欠との認識のもと、市場開設者の立場から、産業革新投資機構（以下「JIC」という。）に対して、以下のように期待したい。

1. 民間ファンドが資金を供給できていない有望企業への特化

- 現状、毎年100社程度のIPOが行われているが、ITや情報通信・サービスなどの企業が多く、こうした産業に関しては、上場前の民間ベンチャーキャピタルによる資金供給が活発
- 一方で、これからの我が国の新しい産業を創造していくような、大きな成長が期待される先行投資・研究開発型の企業に関しては、諸外国と比較して上場事例・成功事例は少なく、民間ファンドにおける資金供給も圧倒的に不足
- JICには、民間ファンドが資金を供給できていない有望な企業に特化して、リスクマネーの十分な供給がなされることを期待

2. 上場後も含めた長期的な支援の実施

- 現状、ベンチャーキャピタル等が上場時（あるいはその直後）にイグジットして、上場後に個人投資家中心の市場が形成される例が多い
- ベンチャー企業が上場後も力強い成長を続けることが期待されるが、そのためには、上場後も機関投資家によるリスクマネー供給と、それを受けるに足る経営体制に係る継続的な支援が重要であり、とりわけ、先行投資・研究開発型の企業に関しては、より長期的な支援が必要
- JICには、例えば、上場後に企業の研究開発が進展し、市場の流動性も高まり他の機関投資家の投資対象となるまでは、継続保有し支援を続けるなど、長期的な目線で企業を育成する「ロールモデル」となることを期待

3. 民間ファンドの「呼び水」となった後の速やかな退出

- 現状、上記のような先行投資・研究開発型企業を育成していくためのエコシステムが我が国に形成されていないことは大きな課題
- そうしたエコシステムを形成していくためには、本来は民間ファンドがリスクマネー供給の担い手として十分に機能していることが必要
- JICには、その「先導役」としての役割が期待されており、今後、民間ファンドによる環境が整った後は、速やかにその役割を終えることが適切

以 上